

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 星ヶ丘小学校】

| | |
|--------------------|--|
| 1 実践テーマ | I・II・ III ・IV・V（複数選択可） |
| 2 実施対象者 (学年・人数) | 第4学年（78名） |
| 3 展開の形式 | <p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科等名（総合的な学習の時間）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p> |
| 4 目標 (ねらい) | <ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツ体験を通して、障害のある方の苦勞や工夫を知り、やさしさのあるまちづくり（共生する社会）について考える。 ・だれもが気持ちよく幸せに生きるために必要なことについて、自分の考えをもち、未来に向けて前向きに生きていこうとする心情を養う。 |
| 5 取組内容 | <p>1 オリンピックパラリンピックについての学習</p> <p>(1) 「オリンピックパラリンピックに関する指導参考資料」およびDVDをもとに、オリンピックパラリンピックの理念や価値について触れた。パラリンピックの競技を知らせることで、興味関心をもたせた。</p> <p>(2) パラリンピック競技「ゴールボール」について知らせ、ルールを調べた。自分たちにできるルールを考え、実際に行ってみた。</p> <p>2 「やさしさのあるまちづくり」発表会</p> <p>(1) 視覚障害、聴覚障害、肢体不自由に関することで、それぞれが課題を見付け、グループに分かれて調べ学習を行った。調べたことを紙芝居や新聞、劇などにまとめ、発表した。</p> <p>〈課題別グループ〉</p> <p>① 視覚障害者の生活（点字・点字ブロック・盲導犬）</p> <p>② 聴覚障害者の生活（手話・指文字・筆談・聴導犬）</p> <p>③ 手足に障害がある人の生活（車いす・バリアフリー・ボランティア）</p> |

それぞれの障害をもつ方の生活に調べたことで、それぞれの方の抱える不自由さ、不便さについて知り、共生社会について考えた。また、パラスポーツ体験とも合わせて、障害を乗り越える力強さ、感覚の鋭さなどについても考えることができた。

3 道徳科の学習

道徳科「車いすの青春」で、元アイスビレッジスピードレース金メダリスト松江美季選手を生き方について考えた。目標に向かい、ねばり強くやり遂げる力強い心に多くの児童が共感や尊敬の念を抱いていた。

4 「二分の一成人式」での自分の夢発表

それぞれが自分の将来の夢や希望について考え、発表を行う。友達の発表を聞き、それぞれの生き方のよさを認め合い、理解を深める。

6 主な成果

○ パラスポーツ体験を通して、オリンピックやパラリンピックをより身近なものとして感じるようになった。



〈資料写真〉

ゴールボールの体験活動では、アイシェードの代わりに帽子で目を覆った。視界が狭くなり、見えないことで不安や競技をすることの難しさを感じる事ができた。目を隠すことで、見えているときよりも場所の感覚が、広く感じたという感想が多かった。また、ボールを思い通りの所に投げることの難しさも感じていた。パラリンピック選手は、全く見えない状態で相手のゴールに的確にボールを転がすことや聴覚の鋭さに感心する感想が多く聞かれた。実際にゴールボールの難しさを体感することで、視覚障害の方が生活するときの難しさについても考えることができた。



【児童の感想から】

目隠しをしているので、キーパーの時に、ボールをどこに投げているのかわからず、不安になりました。目隠しをしていないときは、ゴールが狭く感じたけれど、目隠しをするととても広く感じました。とても不思議でした。

| | |
|---------------------|---|
| | <p>d 目隠しをしていると、人のいない所をねらったり、ボールをコントロールしたりすることがとても難しかったです。パラリンピック選手は、チームで協力しながら点を次々に決めていたので、すごいなと思いました。</p> <p>目隠しをして、何も見えなかったのでこわかったです。次にゴールボールをすることがあったら、こわがらずに頑張りたいです。</p> <p>ボールから音がするので、その小さな音を聞き取るためには、たくさんの練習が必要だなと思いました。</p> <p>○ パラスポーツを体験した後に、調べ学習を設定したことで、一人一人が主体的に課題を設定することができた。 〈児童アンケートより〉</p> <p>○ オリンピックパラリンピックに関しては、単元の導入で、体験活動の動機付けとして扱ったものの、オリンピックパラリンピックへの興味や関心はあまり高まっていなかった。</p> <p>○ 障害や障害者についての調べ学習や発表する活動を行ったことで、事後アンケートでは、「社会の人のために役に立ちたい」「お年寄りや障害のある方と交流したい」という項目について約80%の児童が肯定的な回答を示しており、関心が高まっていることがうかがえた。</p> |
| 7実践において工夫した点(事業の特色) | <p>○ 総合的な学習の時間だけでなく、道徳科や体育科など、横断的統合的に関連付けることで問題解決的な学習を展開できるよう工夫した。</p> <p>○ 今年度はゲストティーチャーを招聘することができなかつたため、パラスポーツ体験活動から障害の疑似体験を行うことで、障害をもつ方の不便さや不自由さ、感覚の鋭さなどを感じることができるようにした。</p> |
| 8主な課題等 | <p>○ 今年度はコロナ感染拡大防止のため、ゲストティーチャーを招聘することができなかつた。オリンピックパラリンピックの出場経験者や障害をもつ方を招聘し、実際の体験談を聞いたり、一緒に活動したりする機会をもつ学習が展開できれば、より実感を伴った理解が深まると考える。</p> <p>○ ゲストティーチャーを招聘することができない場合、ビデオレターやリモート学習等を活用するなどして、オリンピックパラリンピックの出場経験者や障害をもつ方との交流を行うことを検討する。</p> |
| 9来年度以降の実施予定 | <p>○ 2020 東京オリンピックパラリンピックの出場経験者や出場内定者と実際に触れあう機会を全校に広げ、実感を伴った理解を深めたい。スポーツを通じたインクルーシブな社会(共生社会)の構築やスポーツに対する興味関心の向上、スポーツを楽しむ心の醸成に、全校児童で取り組んでいきたい。</p> |